多様な留学制度

受験生特集 4～8面

国際交流――キャンパスでも活発

▲ キャンパスの国際交流は活発＝12年6月のボウリング大会

専修大学は、世界16カ国・地域20大学と国際交流協定を結び、活発な教育・研究交流を行っている。

夏と春の短期留学プログラム、中期・長期交換・セメスター交換留学制度により、期間、留学先、プログラム内容がさまざまな海外留学が可能だ。そのための留学支援講座もきめ細かく展開している。

キャンパス内には、海外から多くの留学生が学んでいる。学部や大学院に所属する留学生のほか、海外の協定校からの交換留学生、日本語や日本文化を学ぶ短期留学生がおり、海外の学生と交流する機会がある。

国際交流協定校
（16カ国・地域20大学）

韓国	檀国大学
中国	上海大学 西北大学 北京大学国際関係学院
台湾	中山大学
モンゴル	モンゴル国立大学
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ人文社会科学大学
ラオス	ラオス国立大学
アメリカ	ネブラスカ大学リンカーン校 サスクェハナ大学 オレゴン大学
カナダ	マウントアリソン大学
メキシコ	イベロアメリカーナ大学
イギリス	ブリストル大学
アイルランド	ダブリン大学トリニティカレッジ
ドイツ	マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク
スペイン	バルセロナ大学
フランス	リヨン政治学院
オーストラリア	ウーロンゴン大学
ニュージーランド	ワイカト大学

仏リヨン政治学院と新たに国際交流協定

既協定校の組織改編で

▲ リヨン政治学院

専修大学はリヨン政治学院（Sciences Po Lyon）と昨年12月、国際交流協定を締結した。本学は1997年以来、リュミエール・リヨン第2大学と協定を結んでいたが、同大学の組織、改編で、リヨン政治学院と協定することになった。交流内容は以下の通り。

▽教職員・研究員の交流の促進
▽学生交流の促進
▽学術文献及び学術情報の交換の促進
▽右記協定内容を発展させるためのその他学術活動の促進

なお、中期留学プログラム（フランス語コース）については、リュミエール・リヨン第2大学CIEF（大学付属国際フランス語研究センター）を研修校とし、引き続き同プログラムを実施する。

リヨン政治学院

1948年創立。リュミエール・リヨン第2大学と提携関係にある公的教育機関。政治学のみならず社会科学全般に関するグランゼコール（公立私立の教育機関で、工学系大学、経営学系大学、高等師範学校、政治学院、獣医大学ほか、あらゆる分野の専門的分野の大学を目指すフランス独自の制度）である。

学生は約1650人、教職員は約350人（教員約310人、職員約40人）。国内外の機関と政治学、メディア、比較文化分野などで共同研究を行い、半世紀以上にわたり多くのパートナーシップを築き上げている。国際交流に関しては、約60カ国160機関と提携し、留学派遣者数の増加を促進している。5年制の修士課程では、公的機関や民間企業におけるリーダーになるための基礎および高度な専門知識を学ぶ。

専大校友を訪ねて

草の根の視点を忘れずに

ウガンダで青年海外協力隊員として活動した 小河（おがわ） 智子（ともこ）さん（平18経済）

「自分の能力がためされた2年間でした。この体験を糧にステップアップしたい」

昨年秋、青年海外協力隊員として、2010年から2年滞在したアフリカ東部のウガンダから帰国。同国では、コメの生産性向上をめざして奮闘した。専門家の指導の下、乾燥に強い陸稲、ネリカ米の普及や水田作りを指導した。

ナイル川の源流であるビクトリア湖を擁し、マウンテンゴリラの生息地、ルウェンゾリ山などがある緑豊かな同国は「アフリカの真珠」と呼ばれた。コーヒー、砂糖、茶、トウモロコシ、イモ、豆など食糧に恵まれているが、コメの消費量も年々増加している。

人々は優しく、もてなし上手。街を歩けば知らない子どもも大人も声をかけてくれる。家族を大切にし、困ったら助け合う文化が根付いている。

岐阜県不破郡垂井町出身。発展途上国に興味を持ったのは、小さいころにマザー・テレサの伝記を読んでから。インド貧困地帯に住み、苦しむ人、見捨てられている人のために、献身的に奉仕した「テレサのような活動をしたい」と夢に描いた。大学は「国際」と冠の付く経済系を希望し、専大の経済学部国際経済学科へ。

鈴木直次ゼミに入り、3年次には生田キャンパスで開かれたインナー大会の副実行委員長を務めた。狐崎知己教授の「NGO論」ではフィリピンでボランティアも。「現場に足を運ぶ」対面重視の精神は、大学時代に身についた。

在学中の2年間は、新聞奨学生として新聞配達をしながら学んだ。家庭の事情で一時休学したものの5年間で卒業。卒業後は市場調査会社に4年間勤務後、念願の青年海外協力隊員に。

「発展途上国の現状を〝草の根〟からみつめる人間であり続けたい」

4月からは神戸大学大学院国際協力研究科に進学。国際援助や調査の研究に励む。

充実した外国語学習環境を提供

LL教室・映画上映・講演会など多彩に

本学はIT時代にふさわしいインターネットやマルチメディアに対応したデジタル方式のシステムを採用し、「21世紀の新しい外国語学習環境」を提供している。

「LL」とは、Language Laboratoryの略語で、本学LL教室では、オーディオ、ビデオ、コンピュータなどの機器を使った、実践的な外国語教育を展開している。

「外国語教育研究会」を随時開催、コマーシャルベースに乗らない映画の上映や言語にまつわる講演などを展開している。

「ニュース専修」では毎号、語学担当教員のコラムを紹介。言語にまつわる体験談や外国語学習のヒントを、肩の凝らないエッセーとして掲載している（コラム全文は、LL研究室のホームページで）。

外国語のススメ LL研究室 ―●17●―

ドイツ語

寺尾格　LL研究室長・経済学部教授

世界は広いぞ！ 外国語教育研究会・上映会参加のオススメ

外国語のススメも35回目（HP掲載）を数えます。これまでにご執筆いただいた諸先生方の記事を拝見すると、その多彩な内容に、あらためて外国語を学ぶ奥深さに思いいたった次第です。学習のためのさまざまなヒントも数多いようですので、ぜひぜひLL研究室のHPから、過去の記事をのぞいてみてください。絶対に損はしないでしょう！

さて、今回は「外国語教育研究会」のオススメです。外国語教員のみを対象とするのではなく、より広く学生の皆さんや、あるいは一般の方々をも対象として、外国語の背景となる文化・社会・歴史等々への関心を呼び起こすような内容の講演、シンポジウムや映画上映などを開催しています。

昨年はイギリスの俳優さんによる「英語は声から」という講演とワークショップ。同じくイギリスの作家デイヴィッド・ピース氏の小説『東京三部作』をめぐる「越境する言葉、幻の東京」は、作家本人による英語の朗読と、執筆や翻訳をめぐる質疑応答。上映会ではスペイン語と中南米の社会を扱った『忘却Oblivion』と、フランス語と植民地支配を扱った『アフリカ、お前をむしりとる』は、どちらも上映後の意見交換が盛り上がりました。問題意識の高いドキュメント映像は、娯楽中心の一般上映では見る機会が限られています。今年もさまざまな興味深い企画が無料で（！）行われます。チャレンジ精神の旺盛な学生の皆さんも、どうかお出かけ下さい。世界は広いぞ！

※全文はLL研究室ホームページで。

▼『アフリカ、お前をむしりとる』のポスター

都合により記事を掲載致しません

冬期日本語・日本事情プログラム展開中

本学の国際交流協定校のほか留学生が、日本語や日本文化を幅広く学ぶ冬期日本語・日本事情プログラムが1月11日から始まった。

仏リヨン政治学院など6大学から19人が参加。日本語学習のほか、川崎市内の小学校の訪問、三鷹の森ジブリ美術館見学、歌舞伎鑑賞、ひな祭りパーティーや折り紙教室などさまざまなプログラムを体験して日本への理解を深める（2月28日まで）。

▲ 歓迎会で